

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東北芸術工科大学
設置者名	学校法人東北芸術工科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
芸術学部	文化財保存修復学科	夜・通信			14	14	13	
	歴史遺産学科	夜・通信			14	14	13	
	美術科	夜・通信			14	14	13	
	工芸デザイン学科	夜・通信			14	14	13	
	文芸学科	夜・通信			16	16	13	
デザイン工学部	プロダクトデザイン学科	夜・通信			14	14	13	
	建築・環境デザイン学科	夜・通信			14	14	13	
	グラフィックデザイン学科	夜・通信			14	14	13	
	映像学科	夜・通信			14	14	13	
	企画構想学科	夜・通信			14	14	13	
	コミュニティデザイン学科	夜・通信			14	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページによる公表 http://www.netbus.tuad.ac.jp/kyogakuka_gakushukekka.htm (教育・学修の状況/調査・アンケートの結果>実践的教育の推進体制>■実務経験豊かな教員が指導する科目一覧(実務家教員と担当科目))

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北芸術工科大学
設置者名	学校法人東北芸術工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/ (1. 教育研究上の基礎的な情報>(5)②役員等名簿)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	旅館取締役社長	2025年6月25日 ～ 2027年6月(定時 評議員会終結の 時)	地元産業界との連携
非常勤	株式会社代表取締役社長	2025年6月25日 ～ 2027年6月(定時 評議員会終結の 時)	地元産業界との連携
(備考) 学外理事6名のうち2名を表示			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北芸術工科大学
設置者名	学校法人東北芸術工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>当該年度に開講する全科目について、本学様式の授業計画書・シラバスで、授業内容、目標、成績評価他必要な事項を統一的に明示し、履修学生に対して周知している。また、科目等履修生及び外部聴講生も閲覧できるように本学ホームページを通じて公表している。</p> <p>[年間スケジュール]</p> <p>9月 次年度学科別開講計画書作成依頼</p> <p>10月 次年度学科別開講計画書提出締切</p> <p>11月 学部長ヒアリング</p> <p>12月 次年度の教育課程編成会議において開講科目審議・決定</p> <p>1月 シラバス作成要領 メール配信</p> <p>2月 シラバス入力締切・第三者チェック・修正指示</p> <p>3月 シラバス公開</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページでの公表 (シラバス検索)</p> <p>https://portal.tuad.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml</p> <p>東北芸術工科大学ネットバス>★シラバスはこちらから閲覧してください>シラバス照会>シラバス検索</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位認定等については学則に基準を示し、学内専用サイト「学修・学生生活サイト」に詳細を提示するとともに、オリエンテーションでも学生に説明している。</p> <p>各科目の評価の観点と評価方法についても、インターネットによる学修支援ポータルサイト「NETBUS」で公開するシラバスで事前に確認できる。加えて担当教員も初回の授業で詳細を告知している。また、GPA と連動する履修登録単位の上限を設けることで適切な学修時間を確保し、登録科目をきちんと履修する勉学姿勢を身に付けさせている。2年次から3年次への進級要件を設定することにより、4年次終了時の留年率の低下を図っている。</p> <p>授業担当教員に対しては、教務部長名により「成績評価の基準等について（通知）」を教授会で共有するとともに、授業学期ごとに「学修成果の評価（成績）基準の明確化とA,B 評価割合の遵守」、「公開後修正とならないような評価および作業のお願い」と題して、シラバス記載事項に留意し厳格な評価を行うことはもちろん、評価の公正さや基準に照らした明瞭さを担保し、成績公開後に学生から「成績確認申請」があった場合でも明確に回答できるよう通知している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA 制度の導入により成績評価をポイント化し、総合的かつ客観的に表している。シラバスに各授業の学習目標や目標達成のための授業方法及び計画を提示し、成績評価基準を明示した上で、厳格な成績評価を行っている。</p> <p>[GPA の計算方法]</p> <p>各科目の単位当たりの評価（GP=グレードポイント）の総合平均を示す。各科目の単位当たりの評価（GP）は、成績評点を4点満点のスケールで点数化したもの（A=4.00、B=3.00、C=2.00、D=1.00、F=0）を、科目の単位数に乗じて算出している。</p> <p>なお、本学独自の成績評価A・B・C・D・Fの基準を定め、学内専用サイトにより周知し、大学ポートレート等により公表している。</p> <p>また、当該学期ごとおよび通算での卒業要件科目に関する単位取得状況の分布表、ならびに当該学期および通算でのGPA分布状況等を大学ホームページで公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大学ポートレートでの公表</p> <p>https://up-j.shigaku.go.jp/school/category02/0000000081401000.html</p> <p>(本学での学び>学修についての評価>GPAの活用/成績評価の厳格な運用 他)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

東北芸術工科大学は、「藝術立国」を基本理念とし、人と自然を思いやる想像力と社会を変革する創造力を身につけ、困難な課題を克服しようとする強い意志と共に、芸術やデザインの力を社会のために用いることのできる人材の育成を目的としています。

【芸術学部】

芸術学部は、上記目的に基づき、下記に示す「4つの力（想像力、創造力、意志、社会性）と10の能力要素」を身につけた学生に学位を授与します。

- 1 本質を見ようとする姿勢、純粋な目「想像力」
幅広い知識、多様な視点、豊かな美意識を持ち、世界に内在するさまざまな課題を発見し、説明できる。
- 2 想いを形にできる力「創造力」
発想・直感から創り上げたイメージを、具体的に表現し伝えることができる。
- 3 問題提起と解決への強い意志「意志」
自立した「個」の確立を目指し、その強い意志と芸術の力によって、社会に向けて新鮮で本質的な価値観を提起できる。
- 4 社会的・職業的自立のための能力・態度「社会性」
職業観、勤労観を培い、社会人としての基礎的資質・能力を形成し、積極的に社会参加できる。

身に付けるべき力	能力要素	内容
想像力	知識・理解	人間、社会、自然に関する体系的知識の習得と理解
	思考力	正しい情報をもとに、物事を理論的・体系的に考えぬく力
	課題発見力	対象の本質や成り立ちを探求し、その課題を考えぬく力
創造力	発想・構想力	豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめあげる力
	表現力	概念・イメージなどを、適切な技術・技法を用いて様々な媒体によって視覚化する力
意志	倫理性	自らの良心に従い、社会のために芸術の力を用いる姿勢
	実行力	主体性を持って粘り強く課題に取り組み、周囲を動かし確実に実行する力
社会性	基礎学力	読み・書き・計算・コンピュータリテラシー、情報リテラシー
	自己管理力	自らを律し将来の成長のために主体的に学ぼうとする力
	人間関係形成力	多様な他者を理解し、自分の考えを正確に伝えつつ、他者と協力・協働して社会に参画する力

【デザイン工学部】

デザイン工学部は、上記目的に基づき、下記に示す「4つの力（想像力、創造力、意志、社会性）と10の能力要素」を身につけた学生に学位を授与します。

- 1 本質を見ようとする姿勢、純粋な目「想像力」
幅広い知識、多様な視点、豊かな美意識を持ち、世界に内在するさまざまな課題を発見し、説明できる。

2 想いを形にできる力「創造力」

発想・直感から創り上げたイメージを、具体的に表現し伝えることができる。

3 問題提起と解決への強い意志「意志」

社会のためにデザインの力を用いる姿勢と強い意志を身に付け、困難な問題に対する解決策を提案できる。

4 社会的・職業的自立のための能力・態度「社会性」

職業観、勤労観を培い、社会人としての基礎的資質・能力を形成し、積極的に社会参加できる。

身に付けるべき力	能力要素	内容
想像力	知識・理解	人間、社会、自然に関する体系的知識の習得と理解
	思考力	正しい情報をもとに、物事を理論的・体系的に考えぬく力
	課題発見力	対象の本質や成り立ちを探求し、その課題を考えぬく力
創造力	発想・構想力	豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめあげる力
	表現力	概念・イメージなどを、適切な技術・技法を用いて様々な媒体によって視覚化する力
意志	倫理性	自らの良心に従い、社会のためにデザインの力を用いる姿勢
	実行力	自ら設定した課題に粘り強く取り組み、周囲を動かし確実に実行する力
社会性	基礎学力	読み・書き・計算・コンピュータリテラシー、情報リテラシー
	自己管理能力	自らを律し将来の成長のために主体的に学ぼうとする力
	人間関係形成力	多様な他者を理解し、自分の考えを正確に伝えつつ、他者と協力・協働して社会に参画する力

なお、学則第 47 条に卒業について定めており、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

卒業の認定に関する方針の公表方法	大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/policy/
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東北芸術工科大学
設置者名	学校法人東北芸術工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法：大学ホームページでの公表
貸借対照表	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/ (3. 財務情報 (令和6年度))
収支計算書又は損益計算書	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/ (3. 財務情報 (令和6年度))
財産目録	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/ (3. 財務情報 (令和6年度))
事業報告書	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/ (3. 財務情報 (令和6年度))
監事による監査報告(書)	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/ (3. 財務情報 (令和6年度))

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称：)	対象年度：)
公表方法：	
中長期計画 (名称：)	対象年度：)
公表方法：	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure-etc/self-inspection/
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure-etc/jiheer/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 芸術学部・デザイン工学部		
教育研究上の目的 公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/policy/		
<p>(概要)</p> <p>人と自然を思いやる想像力と、社会を変革する創造力を身に付け、自らの意思で未来を切り拓くことができる人材の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本質を見ようとする姿勢、純粋な目：「想像力」 Imagination 2. 想いを形にできる力：「創造力」 Creativity 3. 問題提起と解決への強い意志：「意志」 Spirit 4. 社会的・職業的自立のための能力・態度：「社会性」 Sociality 		
卒業又は修了の認定に関する方針 公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/policy/		
<p>(概要)</p> <p>東北芸術工科大学は、「芸術立国」を基本理念とし、人と自然を思いやる想像力と社会を変革する創造力を身につけ、困難な課題を克服しようとする強い意志と共に、芸術やデザインの力を社会のために用いることのできる人材の育成を目的としています。</p> <p>【芸術学部】</p> <p>芸術学部は、上記目的に基づき、下記に示す「4つの力（想像力、創造力、意志、社会性）と 10 の能力要素」を身につけた学生に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本質を見ようとする姿勢、純粋な目「想像力」 幅広い知識、多様な視点、豊かな美意識を持ち、世界に内在するさまざまな課題を発見し、説明できる。 2 想いを形にできる力「創造力」 発想・直感から創り上げたイメージを、具体的に表現し伝えることができる。 3 問題提起と解決への強い意志「意志」 自立した「個」の確立を目指し、その強い意志と芸術の力によって、社会に向けて新鮮で本質的な価値観を提起できる。 4 社会的・職業的自立のための能力・態度「社会性」 職業観、勤労観を培い、社会人としての基礎的資質・能力を形成し、積極的に社会参加できる。 		
身に付けるべき力	能力要素	内容
想像力	知識・理解	人間、社会、自然に関する体系的知識の習得と理解
	思考力	正しい情報をもとに、物事を理論的・体系的に考えぬく力
	課題発見力	対象の本質や成り立ちを探求し、その課題を考えぬく力
創造力	発想・構想力	豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめあげる力
	表現力	概念・イメージなどを、適切な技術・技法を用いて様々な媒体によって視覚化する力

意志	倫理性	自らの良心に従い、社会のために芸術の力を用いる姿勢
	実行力	主体性を持って粘り強く課題に取り組み、周囲を動かし確実に実行する力
社会性	基礎学力	読み・書き・計算・コンピュータリテラシー、情報リテラシー
	自己管理能力	自らを律し将来の成長のために主体的に学ぼうとする力
	人間関係形成力	多様な他者を理解し、自分の考えを正確に伝えつつ、他者と協力・協働して社会に参画する力

【デザイン工学部】

デザイン工学部は、上記目的に基づき、下記に示す「4つの力（想像力、創造力、意志、社会性）と10の能力要素」を身につけた学生に学位を授与します。

1 本質を見ようとする姿勢、純粋な目「想像力」

幅広い知識、多様な視点、豊かな美意識を持ち、世界に内在するさまざまな課題を発見し、説明できる。

2 想いを形にできる力「創造力」

発想・直感から創り上げたイメージを、具体的に表現し伝えることができる。

3 問題提起と解決への強い意志「意志」

社会のためにデザインの力を用いる姿勢と強い意志を身に付け、困難な問題に対する解決策を提案できる。

4 社会的・職業的自立のための能力・態度「社会性」

職業観、勤労観を培い、社会人としての基礎的資質・能力を形成し、積極的に社会参加できる。

身に付けるべき力	能力要素	内容
想像力	知識・理解	人間、社会、自然に関する体系的知識の習得と理解
	思考力	正しい情報をもとに、物事を理論的・体系的に考えぬく力
	課題発見力	対象の本質や成り立ちを探求し、その課題を考えぬく力
創造力	発想・構想力	豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめあげる力
	表現力	概念・イメージなどを、適切な技術・技法を用いて様々な媒体によって視覚化する力
意志	倫理性	自らの良心に従い、社会のためにデザインの力を用いる姿勢
	実行力	自ら設定した課題に粘り強く取り組み、周囲を動かし確実に実行する力
社会性	基礎学力	読み・書き・計算・コンピュータリテラシー、情報リテラシー
	自己管理能力	自らを律し将来の成長のために主体的に学ぼうとする力
	人間関係形成力	多様な他者を理解し、自分の考えを正確に伝えつつ、他者と協力・協働して社会に参画する力

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：大学ホームページでの公表 <https://www.tuad.ac.jp/about/policy/>

(概要)

【芸術学部】

芸術学部のカリキュラムは、全学共通の《基盤科目》、各学科・コース毎に開設の《専門

科目》から構成され、これらが相乗効果を生み出すことで、ディプロマ・ポリシーに定める4つの力と10の能力の修得を可能としています。また、《基盤科目》と《専門科目》を通じて、創造的な能力を備えた人材の育成に取り組むとともに、社会の革新を目指す「藝術立国」のために《進路教育》にも力を注ぎます。

〈教育課程の実施方針〉

芸術学部の授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれか、またはこれらの併用により行うものとします。多様なメディア等を利用して、授業を行う教室等以外の場所での履修を可能にしています。

授業期間は、1年2学期（セメスター制）と1学期2ターム（クォーター制）を併用します。学生が長期間に渡り深くじっくり学ぶ科目と短期間で集中的に学修するという多様な学びを両立させるカリキュラムを実施します。

各科目の重要度により、必修・選択の科目区分を設定し、また授業科目の年次配当や受講順序は、基礎・応用・発展の区分を明示し、カリキュラム・ツリーとして学科・コース毎ごとにまとめられています。その指針に沿って、修学の進行度に合わせて適切に授業科目を選択し、所定の単位数を修得します。

演習科目では、授業時間外の学修を重視し、学生が主体的に学びを深められる仕組みを強化しています。これにより、授業で得た知識やスキルを活用し、自ら計画を立てて探求を進める機会が増え、学びの質の向上を期待します。この取り組みにより、教員主導から学生主体の学びへの転換を目指し、問題解決能力や応用力の向上を図ります。

【デザイン工学部】

デザイン工学部のカリキュラムは、全学共通の《基盤科目》、各学科・コース毎に開設の《専門科目》から構成され、これらが相乗効果を生み出すことで、ディプロマ・ポリシーに定める4つの力と10の能力の修得を可能としています。また、《基盤科目》と《専門科目》を通じて、創造的な能力を備えた人材の育成に取り組むとともに、社会の革新を目指す「藝術立国」のために《進路教育》にも力を注ぎます。

〈教育課程の実施方針〉

デザイン工学部の授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれか、またはこれらの併用により行うものとします。多様なメディア等を利用して、授業を行う教室等以外の場所での履修を可能にしています。

授業期間は、1年2学期（セメスター制）と1学期2ターム（クォーター制）を併用します。学生が長期間に渡り深くじっくり学ぶ科目と短期間で集中的に学修するという多様な学びを両立させるカリキュラムを実施します。

各科目の重要度により、必修・選択の科目区分を設定し、また授業科目の年次配当や受講順序は、基礎・応用・発展の区分を明示し、カリキュラム・ツリーとして学科・コース毎ごとにまとめられています。その指針に沿って、修学の進行度に合わせて適切に授業科目を選択し、所定の単位数を修得します。

演習科目では、授業時間外の学修を重視し、学生が主体的に学びを深められる仕組みを強化しています。これにより、授業で得た知識やスキルを活用し、自ら計画を立てて探求を進める機会が増え、学びの質の向上を期待します。この取り組みにより、教員主導から学生主体の学びへの転換を目指し、問題解決能力や応用力の向上を図ります。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：大学ホームページでの公表 <https://www.tuad.ac.jp/about/policy/>

（概要）

東北芸術工科大学は、「藝術立国」という理念のもと、“人と自然を思いやる想像力と、社会を変革する創造力を身につけ、自らの意思で未来を切り拓くことができる人材の育成”を教育目標としています。芸術学部及びデザイン工学部の入学選抜では、それぞれの専門領域に即して多面的・総合的に評価するために、次の観点から入学希望者を募集します。

(1) 芸術やデザインに興味と熱意を持つ人

(2) 高等学校までの学習および経験により培われた基本的な知識を持ち、主体的に学修できる人

(3) 社会に興味を持ち、仲間とともに切磋琢磨して成長できる人

【芸術学部】

芸術は、美を求める純粋な心と知に基づくものであり、人々に夢や希望を与え、新たな価値を生み出す力があります。多様性を学び取る柔軟な姿勢と、自らの創造力や感性を粘り強く磨き続ける意志を身に付け、芸術の力を社会の真の豊かさに向けて生かそうとする入学希望者を求めます。

【デザイン工学部】

デザインとは、見た目を装飾するだけではなく、今や「デザイン思考」として、人間社会の改善や進化に必要不可欠な技術となっています。自己表現や趣味にとどまらず、広く社会をイメージし、何のためにデザインを活用するべきなのか、モノやコトに対するデザインを学び、社会に積極参加しようとする入学希望者を求めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページでの公表

https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/

(1. 教育研究上の基礎的な情報>(1)①教育研究上の基本組織(学部・学科等名称、組織図))

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
芸術学部	—	16人	21人	3人	0人	0人	40人
デザイン工学部		22人	12人	9人	0人	0人	43人
教養部（一般教養）		8人	1人	3人	0人	0人	12人
附置研究所	—	2人	2人	0人	0人	0人	4人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		187人					187人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページでの公表（教員検索） https://www.tuad.ac.jp/about/search/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
芸術学部	269人	279人	103.7%	1,076人	1,138人	105.8%	欠員の範囲	0人
デザイン工学部	324人	325人	100.3%	1,296人	1,334人	102.9%	欠員の範囲	1人
合計	593人	604人	101.9%	2,372人	2,472人	104.2%	欠員の範囲	1人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
芸術学部	220人 (100%)	24人 (10.9%)	182人 (82.7%)	14人 (6.4%)
デザイン工学部	301人 (100%)	5人 (1.7%)	281人 (93.3%)	15人 (5.4%)
合計	521人 (100%)	29人 (5.6%)	463人 (88.8%)	29人 (5.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>当該年度に開講する全科目について、本学様式の授業計画書・シラバスで、授業内容、目標、成績評価他必要な事項を統一的に明示し、履修学生に対して周知している。また、科目等履修生及び外部聴講生も閲覧できるように本学ホームページを通じて公表している。</p> <p>[年間スケジュール]</p> <p>9月 次年度学科別開講計画書作成依頼</p> <p>10月 次年度学科別開講計画書提出締切</p> <p>11月 学部長ヒアリング</p> <p>12月 次年度の教育課程編成会議において開講科目審議・決定</p> <p>1月 シラバス作成要領 メール配信</p> <p>2月 シラバス入力締切・第三者チェック・修正指示</p> <p>3月 シラバス公開</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>単位認定等については学則に基準を示し、在学生専用「学修・学生生活サイト」に掲載し、オリエンテーションでも学生に説明している。各科目の評価の観点と評価方法についても、インターネットによる学修支援ポータルサイト「NETBUS」で公開するシラバスで事前に確認できる。加えて担当教員も初回の授業で詳細を告知している。また、GPAと連動する履修登録単位の上限を設けることで適切な学修時間を確保し、登録科目をきちんと履修する勉学姿勢を身に付けさせている。さらに、2年次から3年次への進級要件を設定することにより、4年次終了時の留年率の低下を図っている。</p> <p>また、授業担当教員に対して教務部長名において「成績評価の基準等について」を教授会で共有するとともに授業学期ごとに「学修成果の評価(成績)基準の明確化とA,B評価割合の遵守」、「公開後修正とならないような評価および作業のお願い」と題して、シラバスの記載事項に留意し厳格な評価を行うことはもちろん、評価の公正さや基準に照らした明瞭さを担保し、成績公開後に学生から「成績確認申請」があった場合でも明確に回答できるよう対応する旨を通知している。</p> <p>なお、学則第47条に卒業について定めており、教授会の議を経て学長が卒業・修了を認定する。</p>

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
芸術学部	文化財保存修復学 科	124 単位	有	18、24、28 単位
	歴史遺産学科	124 単位	有	18、24、28 単位
	美術科	124 単位	有	18、24、28 単位
	工芸デザイン学科	124 単位	有	18、24、28 単位
	文芸学科	124 単位	有	18、24、28 単位
デザイン工学部	プロダクトデザイ ン学科	124 単位	有	18、24、28 単位
	建築・環境デザイ ン学科	124 単位	有	18、24、28 単位
	グラフィックデザ イン学科	124 単位	有	18、24、28 単位
	映像学科	124 単位	有	18、24、28 単位
	企画構想学科	124 単位	有	18、24、28 単位
	コミュニティデザ イン学科	124 単位	有	18、24、28 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページでの公表

https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/

(1. 教育研究上の基礎的な情報>(1)③校地・校舎等の施設及びその他の学生の教育研究環境、校舎等の耐震化率)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

■令和6(2024)年度入学者まで適用

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
芸術学部	美術科/工芸デ ザイン学科/文 化財保存修復学 科	1,200,000 円	275,000 円	240,000 円	その他…休学中の在籍料 (年間)
	歴史遺産学科/ 文芸学科	1,135,000 円	275,000 円	227,000 円	その他…休学中の在籍料 (年間)
デザイン 工学部		1,220,000 円	275,000 円	244,000 円	その他…休学中の在籍料 (年間)

■令和7(2025)年度入学者より適用

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
芸術学部	文化財保存修復 学科	1,200,000 円	275,000 円	240,000 円	その他…休学中の在籍料 (年間)
	歴史遺産学科/ 文芸学科	1,135,000 円	275,000 円	227,000 円	その他…休学中の在籍料 (年間)
	美術科/工芸デ ザイン学科	1,320,000 円	275,000 円	264,000 円	その他…休学中の在籍料 (年間)

デザイン 工学部	プロダクトデザイン学科／建築・環境デザイン学科／グラフィックデザイン学科／映像学科	1,320,000円	275,000円	264,000円	その他…休学中の在籍料(年間)
	企画構想学科／コミュニティデザイン学科	1,220,000円	275,000円	244,000円	その他…休学中の在籍料(年間)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>授業及び学修支援は、授業を中心として教員と協働し、入学前の段階から入学準備プログラムを実行し、入学後もリメディアル教育の充実など、入学前後において切れ目のない学修支援体制を構築している。また授業の運営に当たっては、学科ごとに事務担当職員を配置すると同時に、特に専門科目授業の現場においては、授業所属の副手と成績優秀な学部生・大学院生から選抜されたSA・TAとが協働してきめ細かい授業支援を行っている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>キャリアセンターが、キャリアガイダンスの企画・運営・実施、センター職員の担当学科制による学生のサポートに加え、各学科の会議に出席して教員へ直接働きかけることにより、教員のキャリア教育に対する意識喚起を行っている。また、日常的に学生の進路形成に関する相談と助言を行うとともに、各年次を対象にしたキャリアガイダンスが組織的にきめ細かく実施されている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の心身の健康を包括的に支援する「学生サポートセンター（通称SSC）」を設置し、学生相談、障害学生支援、健康管理、予防教育に取り組んでいる。近年は特に、心身の不調を訴える学生への個別支援の充実と、心身の健康維持を図るための予防教育に重点的に取り組んでいる。1年次必修科目である「健康科学論」を中心に、食事、睡眠、運動及び心の健康に関する基礎知識の普及を図るとともに、SSC主催の正課外活動「アクティブプロジェクト」の実施など、大学コミュニティ全体が健康で健全な状態となるための取り組みを推進している。また、SSCが独自に開発した支援指標（HRI：High Risk Index）を活用した実態調査や学生対応ノウハウの蓄積などを進めている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：大学ホームページでの公表</p> <p>https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2025/</p>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F106310101207
学校名 (〇〇大学 等)	東北芸術工科大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人東北芸術工科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		292人 () 人	295人 () 人	309人 () 人
内 訳	第Ⅰ区分	125人	129人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅱ区分	82人	67人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅲ区分	50人	53人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅳ区分 (理工農)	17人	25人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	18人	21人	
区分外 (多子世帯)	人	人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				- () 人
合計 (年間)				311人 () 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	21人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	58人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	59人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。